



金融とIT（情報技術）を融合するフィンテックの分野でマネーツリー（東京都渋谷区、代表取締役・ポール・チャップマン氏）が存在感を増している。10月22日、みずほキャピタル、三菱UFJキャピタルなどから大型の出資を受けたほか、日本アイ・ビー・エムと協業し、全国125の信金の口座から明細情報を自動的に取得できるサービス「MT LINK」とIBMのクラウドサービスをつなぐ技術の検証に入った。創業者の一人、ポール・チャップマン代表取締役は事業展開の方向性や、信金業界へ向けた取り組みを聞いた。

——企業の強みとなっている技術は。

チャップマン代表 複数の金融機関やカード会社の口座の情報をスマホで自動取得

125信金の口座情報を自動分析

し、資産の状況を知らせてくれるほか、消費癖を分析して教えてくれる「データアグリゲーション」という技術が基になっている。

——製品であるスマホのアプリは、現状はiPhoneとiPad対応だが、Android版を出す予定は。

チャップマン代表 当面考えていない。iOSが現在、市場の7割近くを占めているためだ。

——製品について分かりやすく説明してほしい。

チャップマン代表 201

3年に出した「Money tree 一生通帳、家計簿より楽チン」、2014年に発売した経費精算サービス「Money tree PLU

S」、これらのサービスの基盤となっている金融インフラサービス「MT LINK」は、顧客のアカウント情報をクラウド上で管理し、利用明細を自動的に取得すること

で、最新の口座情報を提供する。「MT LINK」を経由し、全国125の信金を含む、1550の金融機関、銀行口座、クレジットカード、

201

銀行系VCから大型出資

電子マネー、ポイントカードの取引明細情報を高いセキュリティのもとで提供する。

——信金業界に対しての今後の対応は。

チャップマン代表 「MT

LINK」を金融機関、企業と個人をつなぐハブとなるプラットフォームとして整備・拡充していく。これまでデータアグリゲーションは技術

的な課題が多く、運用に高いコストがかかったため、一般企業で利用されることがなかったが、「MT LINK」

はさまざまな業界の既存のシステムを保ちつつ、新しいサービスを創出する機会を提供

する。